



## 2023年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月12日

上場会社名 株式会社エヌジェイホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 9421 URL https://www.njhd.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福田 尚弘  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室長 (氏名) 野澤 創一 TEL 03-5418-8128  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年6月期第3四半期の連結業績（2022年7月1日～2023年3月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第3四半期	7,681	△7.5	△157	—	△172	—	△215	—
2022年6月期第3四半期	8,300	△8.0	△620	—	△623	—	△796	—

(注) 包括利益 2023年6月期第3四半期 △214百万円 (—%) 2022年6月期第3四半期 △872百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第3四半期	△40.67	—
2022年6月期第3四半期	△150.54	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第3四半期	4,300	1,646	36.3
2022年6月期	4,645	1,892	38.8

(参考) 自己資本 2023年6月期第3四半期 1,559百万円 2022年6月期 1,801百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2023年6月期	—	0.00	—	—	—
2023年6月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年6月期の連結業績予想（2022年7月1日～2023年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,470	△1.7	15	—	5	—	△95	—	△17.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年6月期3Q	5,350,400株	2022年6月期	5,350,400株
② 期末自己株式数	2023年6月期3Q	57,550株	2022年6月期	57,550株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年6月期3Q	5,292,850株	2022年6月期3Q	5,292,850株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算説明資料は、2023年5月12日（金）に当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な金融引締めや物価上昇などによる下振れリスクがあるなか、一部に弱さが見られるも、緩やかな持ち直しの動きが続きました。

ゲーム業界におきましては、各種の余暇産業が回復するなかで、余暇時間の獲得競争が激しくなっております。スマホゲーム市場では、コロナ禍の反動減が見られておりますが、コロナ前から続く拡大傾向のなかで再び拡大に向かうことが予想されております。コンシューマー市場では、複数のヒットタイトルや既存タイトルの継続プレイを中心に、市場は堅調に推移しておりますが、新型ハードの不足感も解消を見せるなか、新作タイトルの発売とともに拡大が期待されております。また、PCゲーム人口もクロスプレイ可能な人気タイトルによって拡大を続けております。一方で、クオリティ水準の上昇に伴って続いている開発費の膨張は、今後の持続的な展開に向けたフランチャイズ戦略を強めていくものと予想されます。

モバイル業界におきましては、端末価格の適正化や通信料金の値下げにより、乗り換えメリットが低下するなか、最新機種に対する購買意欲の低下もあって、買い替えサイクルが伸びております。5G通信においては、人口カバー率は拡大している一方、低遅延大容量通信や対応端末の普及はこれからであり、デジタル変革に伴う社会ニーズも踏まえながら、基地局整備や周波数割り当て等の議論がされております。

このような事業環境のなか、当社は、ゲーム事業におきましては、マネジメント体制やリスク管理体制の強化を進めるとともに、新規案件の獲得に注力してまいりました。モバイル事業におきましては、キャリアショップ部門については、提供サービスの拡充を図り、販売店部門については、地域密着型に重点をおいた戦略に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績につきましては、以下のとおりです。

売上高は、ゲーム事業においては、運営サポート分野にて、新規リリースタイトルや海外向けローカライズ対応等に係る受注が順調であります。運営売上上の漸減傾向の影響から、収益が低下いたしました。モバイル事業においては、来店者数の前年度割れが続くなか、集客イベント等の実施に取り組むも、販売台数は計画を下回りました。この結果、売上高は、7,681百万円と前年同期と比べ619百万円(7.5%減)の減収となりました。

営業損益及び経常損益は、ゲーム事業におきましては、開発分野にて、前期のような巨額の前増は発生していないものの、見積原価総額の増加に伴う利益率の低下や運営売上上の漸減に伴い利益が減少しましたが、運営サポート分野にて、受注に伴い順調に利益を伸ばした結果、セグメント損益は、黒字転換いたしました。モバイル事業におきましては、販売台数の減少傾向が続いているものの、1顧客当たりの利益の増加に取り組んだ結果、セグメント利益は、上期の損失を取り戻し、黒字となりました。しかしながら、いずれも僅少にて全社費用等を賄うまでには至りませんでした。この結果、営業損益は、157百万円の営業損失(前年同期は620百万円の営業損失)となり、経常損益は、172百万円の経常損失(前年同期は623百万円の経常損失)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純損益は、215百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失(前年同期は796百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① ゲーム事業

当セグメントにおきましては、(株)ゲームスタジオ、(株)トライエース、(株)ウィットワン、(株)ウィットワン沖縄及び(株)テックフラッグにてゲームの開発受託及び運営受託等を行っております。

売上高については、運営サポート分野にて、新規リリースタイトルや海外向けローカライズ対応等に係る受注が順調であります。運営売上上の漸減傾向の影響から、収益が低下いたしました。この結果、6,023百万円と前年同期と比べ322百万円(5.1%減)の減収となりました。

セグメント損益(営業損益)については、開発分野にて、前期のような巨額の前増は発生していないものの、見積原価総額の増加に伴う利益率の低下や運営売上上の漸減に伴い利益が減少しましたが、運営サポート分野にて、受注に伴い順調に利益を伸ばした結果、セグメント損益は、黒字転換いたしました。この結果、36百万円のセグメント利益(営業利益)(前年同期は421百万円のセグメント利益(営業損失))となりました。

② モバイル事業

当セグメントにおきましては、(株)ネプロクリエイトにてauショップ等のキャリアショップ及び複数の通信事業者の端末・サービスを取り扱う販売店PiPoPark(ピポパーク)を運営しております。

売上高については、来店者数の前年度割れが続くなか、集客イベント等の実施に取り組むも、販売台数は計画を下回りました。この結果、1,608百万円と前年同期と比べ301百万円(15.8%減)の減収となりました。

セグメント利益(営業利益)については、販売台数の減少傾向が続いているものの、1顧客当たりの利益の増加に取り組んだ結果、上期の損失を取り戻し、僅かながら黒字となりました。この結果、11百万円と前年同期と比べ31百万円(73.8%減)の減益となりました。

③ その他

当セグメントにおきましては、クレジット決済事業等を行っております。

売上高については、53百万円と前年同期と比べ3百万円(5.9%増)の増収となりました。セグメント利益(営業利益)については、27百万円と前年同期と比べ3百万円(16.3%増)の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は4,300百万円となり、前連結会計年度末と比べ345百万円の減少となりました。主な要因は、現金及び預金の減少408百万円等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は2,653百万円となり、前連結会計年度末と比べ99百万円の減少となりました。主な要因は、短期借入金の増加100百万円、長期借入金の減少190百万円等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は1,646百万円となり、前連結会計年度末と比べ245百万円の減少となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失215百万円、配当金支払52百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は、なお営業損失であります。当第3四半期連結会計期間の業績は、四半期推移において営業黒字に転換しており、概ね計画どおりに進捗しております。

当連結会計年度における通期の業績見通しにつきましては、2023年2月10日発表の業績予想に変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,094,586	685,903
売掛金及び契約資産	1,679,027	1,721,554
商品	187,719	198,441
仕掛品	25,046	5,095
貯蔵品	1,242	1,215
その他	272,143	316,008
流動資産合計	3,259,766	2,928,218
固定資産		
有形固定資産	108,498	108,682
無形固定資産		
のれん	500,000	440,000
その他	20,055	16,962
無形固定資産合計	520,055	456,962
投資その他の資産		
差入保証金	551,118	399,916
その他	273,034	472,908
貸倒引当金	△66,819	△66,604
投資その他の資産合計	757,332	806,220
固定資産合計	1,385,886	1,371,866
資産合計	4,645,653	4,300,084
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	357,484	407,063
短期借入金	600,000	700,000
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	330,916	273,023
未払法人税等	15,892	30,719
賞与引当金	30,537	14,208
受注損失引当金	67,287	69,344
その他	410,401	459,535
流動負債合計	1,852,519	1,993,893
固定負債		
社債	60,000	20,000
長期借入金	594,645	404,351
退職給付に係る負債	128,682	139,434
その他	117,331	95,507
固定負債合計	900,658	659,293
負債合計	2,753,178	2,653,186

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	592,845	592,845
資本剰余金	350,290	350,290
利益剰余金	917,140	675,432
自己株式	△59,111	△59,111
株主資本合計	1,801,164	1,559,456
新株予約権	34	34
非支配株主持分	91,275	87,405
純資産合計	1,892,475	1,646,897
負債純資産合計	4,645,653	4,300,084

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
売上高	8,300,331	7,681,111
売上原価	7,524,946	6,531,716
売上総利益	775,384	1,149,395
販売費及び一般管理費	1,396,015	1,306,980
営業損失(△)	△620,630	△157,584
営業外収益		
受取利息	143	138
持分法による投資利益	3,630	4,952
不動産賃貸料	9,738	6,990
その他	5,004	2,463
営業外収益合計	18,516	14,544
営業外費用		
支払利息	9,381	9,833
支払手数料	4,553	16,483
不動産賃貸原価	4,611	1,821
その他	2,695	1,310
営業外費用合計	21,241	29,448
経常損失(△)	△623,356	△172,488
特別損失		
減損損失	220,524	—
特別損失合計	220,524	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△843,880	△172,488
法人税等	28,688	42,099
四半期純損失(△)	△872,568	△214,588
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△75,794	654
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△796,773	△215,243



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
四半期純損失(△)	△872,568	△214,588
四半期包括利益	△872,568	△214,588
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△796,773	△215,243
非支配株主に係る四半期包括利益	△75,794	654

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間  
(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゲーム事業	モバイル事業	計		
売上高					
一時点で移転される財又はサービス	3,325,951	1,907,153	5,233,104	50,956	5,284,060
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	3,016,270	—	3,016,270	—	3,016,270
顧客との契約から生じる収益	6,342,222	1,907,153	8,249,375	50,956	8,300,331
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	6,342,222	1,907,153	8,249,375	50,956	8,300,331
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,200	2,394	6,594	—	6,594
計	6,346,422	1,909,547	8,255,969	50,956	8,306,925
セグメント利益又は損失(△)	△421,703	42,944	△378,758	23,644	△355,113

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クレジット決済事業等でありませ

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	△378,758
「その他」の区分の利益	23,644
セグメント間取引消去	—
のれん償却額	△93,926
全社費用(注)	△171,590
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△620,630

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
 (固定資産に係る重要な減損損失)

ゲーム事業において、連結子会社である(株)トライエースの当初の事業計画に対する進捗状況及び今後の業績見通しを考慮した結果、当初想定していた超過収益力が見込めなくなったと判断し、のれんについて減損損失を計上しております。なお、当該事象によるのれんの減損損失の計上額は、220,524千円であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゲーム事業	モバイル事業	計		
売上高					
一時点で移転される財又はサービス	3,829,802	1,607,384	5,437,187	53,987	5,491,175
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	2,189,936	—	2,189,936	—	2,189,936
顧客との契約から生じる収益	6,019,739	1,607,384	7,627,123	53,987	7,681,111
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	6,019,739	1,607,384	7,627,123	53,987	7,681,111
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,000	926	4,926	—	4,926
計	6,023,739	1,608,310	7,632,050	53,987	7,686,038
セグメント利益	36,058	11,236	47,294	27,504	74,798

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クレジット決済事業等でありませす。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	47,294
「その他」の区分の利益	27,504
セグメント間取引消去	—
のれん償却額	△59,999
全社費用(注)	△172,383
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△157,584

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。